

教員養成フラッグシップ大学 ヒアリング審査
【追加調書】

大学名：大阪教育大学

テーマ：

ダイバーシティ大阪の諸課題に応え、学習者の学びに寄り添う教師の育成
 ー協働・省察を促し、教育DXの推進による先導的・革新的教員養成カリキュラムー

概要（5行程度）：

大阪市との協働により設置する大阪アドバンスト・ラーニング・センター（以下「OALeC」という）を拠点として、ダイバーシティを尊重し、多様な児童生徒一人一人に寄り添うきめ細やかな指導力を備えうる実践力に力点を置いたカリキュラムを開発することで、単に知識を教えるのではなく、ファシリテーター的能力を有する教員を養成し、成果を全国に浸透させることにより、日本の教育課題が縮図化した大阪（ダイバーシティ大阪）から令和の日本型学校教育を牽引する。

構想において取り組む重点テーマ（該当するテーマの□を☑にしてください）

（教員養成フラッグシップ大学公募要領より抜粋）

- ①学習者中心の授業デザイン・学習活動デザインについての理解増進，
ファシリテーターとしての教師の役割についての意識向上
- ②教育学や教師教育学、学習科学に基づく省察的实践（仮説設定，教育実践，省察）
を通じて学び続ける教師としての意識・態度の育成
- ③学習者中心の視点に立った教職科目体系の見直し（教科専門を含む）
- ④教師・保護者・地域・専門家等と協働する態度や，協働できる環境を整える組織
マネジメントの資質・能力の育成
- ⑤学校現場における教育データサイエンスの活用やSTEAM教育を先導する人材の
育成
- ⑥障害のある児童生徒，外国人児童生徒，不登校，経済的に困難な家庭の児童生徒，
特定分野に特異な才能のある児童生徒等，多様な子供への理解・対応力
- ⑦学部と教職大学院の一体的な教員養成カリキュラムの検討，現職教員研修
（教員育成指標）との連携の在り方の検討

フラッグシップ大学の特例を用いて新規追加する

科目名、単位数、対象学年、科目概要

学部 / 大学院	科目名	単位数	対象学年	科目概要
学部	ダイバーシティと教育	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性と包摂性のある社会についての理解を深める。 ・学習管理システムを活用しつつ、受講生間でレポートを共有し、自分の社会的立場を認識する学習を実施する。

学部 / 大学院	科目名	単位数	対象学年	科目概要
学部	現代社会と子どもの権利	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困、不登校等、現代社会における子どもの生活や学びについての理解を深める。 ・大阪市の協定校訪問や教職実践教材によるケーススタディ学習を実施する。
学部	障がい者支援入門	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいについての基礎知識、支援の歴史と制度、対人援助の理論と技法等の理解を深める。 ・大阪市の協定校訪問や教職実践教材によるケーススタディ学習を実施する。
学部	外国人児童生徒教育	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・外国にルーツのある子どもの実態と教育課題、及びその支援等の理解を深める。 ・大阪市の協定校訪問や教職実践教材によるケーススタディ学習を実施する。
学部	教師の学びと成長(教職入門実習を含む)	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場を観察する教職入門実習を通じて、学生自身の被教育経験をふりかえり、対象化する。 ・自身の学習観・授業観の転換に踏み出し、教師の学びと成長の展望を得る。
学部	ダイバーシティ教育の理論と方法 I	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な子どもたちが主体的に学ぶことの意義と理論を理解する。 ・デジタル教科書等を活用し、学習指導のあり方等に関する基本的な知識や支援・指導計画の作成方法を修得する。
学部	教科横断と探究学習 I	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・協働学習や探究活動を取り扱った学習指導力や課題解決・探究における情報活用能力を学習ゲーム等の教材を活用しながら修得する。 ・大阪市の義務教育学校におけるコアカリキュラムによる探究学習の実践を体験する。
学部	教育データの活用 I	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・教職実践教材や模擬教育データによる分析演習等を通じて教育データの利活用力を修得する。 ・大学教員と外部人材(客員教員や教育行政職等)とのTT(チーム・ティーチング)によって実施する。
学部	ファシリテーターとしての教員 I	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の主体的な学びを支援できる教育ファシリテーターの役割を理解し、基本的なファシリテーションスキルを修得する。 ・e-learning プログラムを活用し、大学教員と教育関連の企業人材による講義、演習を実施する。

学部 / 大学院	科目名	単位数	対象学年	科目概要
学部	学習者中心の授業デザイン I	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学習観・授業観の転換を目指した授業デザインや授業改善プロセスを構想する力を修得する。 ・既存の教材と ICT 教材を組み合わせ、大学教員と外部人材との TT によって実施する。
学部	教師の職能と専門性	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を中心とした教師の職能と専門性を理解した上で、仮説を設定し、学校インターンシップ等の現場経験を通して検証を行う。 ・改めて検証したい仮説を練り直し、3年次以降の教育実習において実践・検証する。
学部	ダイバーシティ教育の理論と方法 II	1	3・4・5 (※)	<ul style="list-style-type: none"> ・学内外の専門家との協働により、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に構想し、多様な児童生徒の特性や発達段階等に応じた指導力を修得する。 ・附属特別支援学校や大阪市の拠点校等の現場や ICT 教材を活用しながら演習形式で実施する。
学部	教科横断と探求学習 II a・b	各1	3・4・5 (※)	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、特別活動や総合的な学習の時間等のつながりを捉えた学習を学校全体で組織するための力を PBL (問題解決型学習) の模擬授業形式で養う。 ・附属学校園における探究型学習の先行的実践例を通じ、類似する学習法との違いと有用性の探究力を修得する。
学部	教育データの活用 II a・b	各1	3・4・5 (※)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のあり方が変わる将来を見据え、各種画像解析教育データを解析するためのプログラミングを理解する。 ・大学教員と外部人材との TT により、教育データ活用による授業分析やその改善に向けた演習を実施し、学びの DX 推進力、教育データ活用力を修得する。
学部	ファシリテーターとしての教員 II a・b	各1	3・4・5 (※)	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な学びを促進するための学習環境を設計し、参加型学習の手法を活用する力を修得する。 ・未来型教室や実践教材を活用し、場のデザイン、コミュニケーション、構造化、合意形成等のスキルを有機的に結合した、ワークショップ型授業を構想する力を修得する。
学部	学習者中心の授業デザイン II a・b	各1	3・4・5 (※)	<ul style="list-style-type: none"> ・実践教材を活用し、学習科学の知見の活用や主体的・対話的で深い学びを実現するための学習デザイン力を修得する。

学部 / 大学院	科目名	単位数	対象学年	科目概要
				<ul style="list-style-type: none"> ・大学教員と外部人材とのTTにより、子どもの理解を助け、思考を深めるための指導方法を講義、演習により実施する。
教職大学院	特別ニーズ教育の理論と実践	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「ダイバーシティの理解に関する領域」科目（2科目4単位選択必修）。 ・附属学校園、大阪市の拠点校を実践フィールドとする。 ・特別なニーズのある子どもの教育について、基本的課題を理解すると同時に、それぞれの教育・研究方法や障害種別を越えた教育についても理解し、実践に移す。 ・特別支援教育学・特別支援心理学・特別支援臨床学の各専門分野から教育方法や研究方法について多角的に考えを深める。
教職大学院	外国にルーツのある子どもの教育	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「ダイバーシティの理解に関する領域」科目（2科目4単位選択必修）。 ・外国にルーツのある子どもの多様性とそれを取り巻く教育環境の現状と課題を理解し、勤務校や実習校等において在籍学級での支援を実行する。 ・外国にルーツのある子どもの教育について、ICT等を活用した指導案検討を通じて、学力形成を促す教科指導の方法を理解し、授業づくりを行う。
教職大学院	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「ダイバーシティの理解に関する領域」科目（2科目4単位選択必修）。 ・子どもの貧困や虐待の援助について、個人への援助、学級経営の中での援助に分けて事例分析に基づき、行動化を図る。 ・教師はどのように心理職、福祉職と連携すべきか現職教員（教員志望学生含む）のコラボレーションによるケーススタディを実施する。 ・貧困や虐待の被害を受けている子どもが学校現場で抱える課題について、事例を踏まえ検討し、教師が使える援助技法を身に付ける。
教職大学院	教育におけるDXとSTEAMの理論と実践	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育DX・STEAM実践に関する領域」科目。 ・OALeCの未来型教室フロアを拠点に、大学教員と先端技術に精通した企業人材、教育委員会指導主事等と協働し、大阪市教育センターの研修と合同で実施する。 ・「ICT活用の授業研究」をテーマとし、政

学部 / 大学院	科目名	単位数	対象学年	科目概要
				<p>策やカリキュラムや実践の最新動向を諸外国や研究開発学校の事例を例にして理論的実践的に研究した上で、授業者としての ICT 活用の資質を実践的に習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校種連携や教科横断的な視点から実習校での教育に関するテーマを設定し、カリキュラムデザインの具体化に取り組む。
教職大学院	グローバルスタディーズの展開	2	1	<ul style="list-style-type: none"> 「教育グローバル人材の育成に関する領域」科目。 異文化理解プログラムやグローバル教育を牽引する教師としての資質やスキルやアセスメント・発信の方法を身に付ける。 在外教育施設（日本人学校）との交流により、在外教育施設での教育の意義や役割を理解し、グローバルな考え方や多様な価値観に触れるとともに、海外の子どもに対し、遠隔教育を活用した「令和の日本型学校教育」を学ぶ機会を提供する。
教職大学院	社会的包摂に関する実践的探究	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 「ダイバーシティの理解に関する領域」科目（2科目4単位選択必修）。 マイノリティ、障がい、貧困等、様々な援助ニーズのある幼児・児童・生徒を包摂するための支援・教育を行う。 学校や教員が他の専門家と連携しながら子どもを社会の中で自立することを目指し、そのためにできる教育や支援を行う。 子どもたちが社会的に自立するために必要なプロセスや援助者としての役割を理解するため、フィールドワークを行う。
教職大学院	チーム学校の実践的展開	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 「多職種協働による組織マネジメントに関する領域」科目。 「チームとしての学校」の考え方を理解した上で、学校現場での協働体制やマネジメント体制、外部との連携方策等の改善策を構想するための PBL（問題解決型学習）による演習を行う。 心理・福祉・保健の専門職等の教育支援人材の育成を目的とする、大学院教育学研究科（修士課程）の授業との合同により、地域の各種の専門家との協働的な演習を行う。

※初等教育教員養成課程夜間コースのみ5年